

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年11月12日

【四半期会計期間】 第127期第1四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

【会社名】 日本ヒューム株式会社

【英訳名】 NIPPON HUME CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野村 静夫

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋五丁目33番11号

【電話番号】 (03) 3433-4111 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 中屋 巳子雄

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋五丁目33番11号

【電話番号】 (03) 3433-4111 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 中屋 巳子雄

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年8月7日に提出した第127期第1四半期（自平成21年4月1日至平成21年6月30日）四半期報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況

（2）受注状況

4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

（1）経営成績の分析

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(2) 受注状況

(訂正前)

当第1四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次の通りであります。なお、「第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載の通り、当第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントの区分を変更しております。このため、前年同四半期比較については、前年同四半期実績値を変更後の区分に組み替えて行っております。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	
			受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コンクリート製品事業	8,256,771	13.1	8,820,018	48.8
工 事 事 業	1,819,104	33.0	2,784,429	17.5
不動産開発事業	-	-	-	-
そ の 他 事 業	48,796	59.6	-	-
合 計	10,124,672	0.1	11,604,448	24.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(訂正後)

当第1四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次の通りであります。なお、「第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載の通り、当第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントの区分を変更しております。このため、前年同四半期比較については、前年同四半期実績値を変更後の区分に組み替えて行っております。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	
			受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コンクリート製品事業	5,256,771	28.0	4,502,340	24.0
工 事 事 業	1,819,104	33.0	2,056,826	39.1
不動産開発事業	-	-	-	-
そ の 他 事 業	48,796	59.6	-	-
合 計	7,124,672	29.7	6,559,166	29.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

(訂正前)

(前略)

このような状況下で当社グループは、平成21年度(第127期)を初年度とする新中期経営計画『NHC-2(two)計画』を策定して、その目標達成に向けて全社を挙げて鋭意取り組んでおります。その結果、当第1四半期連結会計期間の受注高は101億24百万円となり、売上高は工事進行基準の適用の影響等により、前第1四半期連結会計期間比7.6%増の81億65百万円となりました。

損益につきましては、貸倒引当金の繰入増等により販売費及び一般管理費が増加したこと等により、営業利益が前第1四半期連結会計期間比6.9%減の3億29百万円となりましたが、為替の影響等により経常利益が前第1四半期連結会計期間比136.6%増の5億37百万円、四半期純利益は、前第1四半期連結会計期間の52.8倍となる3億54百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次の通りであります。なお、「第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載の通り、当第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントの区分を変更しております。このため、前年同四半期比較については、前年同四半期実績値を変更後の区分に組み替えて行っております。

コンクリート製品事業

コンクリート製品事業の当第1四半期連結会計期間における受注高は、82億56百万円となりました。売上高は高付加価値製品の拡販に注力した結果、ヒューム管が増加した一方で、パイル製品やボックス製品が伸びず、前第1四半期連結会計期間比0.9%減の53億64百万円となりました。総売上高構成比は65.7%で、営業損失は26百万円となりました。

(後略)

(訂正後)

(前略)

このような状況下で当社グループは、平成21年度(第127期)を初年度とする新中期経営計画『NHC-2(two)計画』を策定して、その目標達成に向けて全社を挙げて鋭意取り組んでおります。その結果、当第1四半期連結会計期間の受注高は71億24百万円となり、売上高は工事進行基準の適用の影響等により、前第1四半期連結会計期間比7.6%増の81億65百万円となりました。

損益につきましては、貸倒引当金の繰入増等により販売費及び一般管理費が増加したこと等により、営業利益が前第1四半期連結会計期間比6.9%減の3億29百万円となりましたが、為替の影響等により経常利益が前第1四半期連結会計期間比136.6%増の5億37百万円、四半期純利益は、前第1四半期連結会計期間の52.8倍となる3億54百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次の通りであります。なお、「第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載の通り、当第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントの区分を変更しております。このため、前年同四半期比較については、前年同四半期実績値を変更後の区分に組み替えて行っております。

コンクリート製品事業

コンクリート製品事業の当第1四半期連結会計期間における受注高は、52億56百万円となりました。売上高は高付加価値製品の拡販に注力した結果、ヒューム管が増加した一方で、パイル製品やボックス製品が伸びず、前第1四半期連結会計期間比0.9%減の53億64百万円となりました。総売上高構成比は65.7%で、営業損失は26百万円となりました。

(後略)